

緑化木の枝切除に注意

1 目的

名木・巨木の健康診断を行ったところ、幹が腐っている木が多数あり、その多くが枝の切り方に原因があるように見られたので、これを確認するための実験を行った。

2 方法

- 材 料 ケヤキ 10 年生
- 場 所 胆沢郡胆沢町小山地内
- 処理時期 平成 6 年 10 月
- 処理方法 枝の付け根から切除
枝の付け根を 5cm 残して切除
- 処理本数 とも 32 本、計 64 本

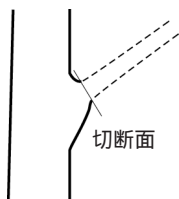
3 結果

の方法で切った場合
枝の付け根部分の組織が発達して切り口を巻込み、3年後には完全にふさがった。
の方法で切った場合
切り口での回復は見られず、残った枝は枯死し、枝の付け根周囲の組織は盛り上がったが、残った枝が障害となって切り口をふさぐことができない。残った枝は徐々に腐朽した。

4 成果の活用

多くの緑化木で、枝を残した不適切な枝切りが行われているので、正しい方法を指導するための資料とする。

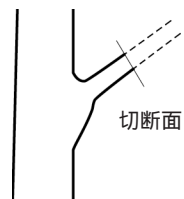
の方法



切除直後



の方法



枝の付け根のふくらんだ部分の再生力が強く、短期間で切り口を巻き込む。



巻き込み中

2年後



残枝の枯れが付け根まで拡大

残された枝は枯れる。
付け根の部分で再生しようとするが、枯れた枝が邪魔になって巻き込めない。

切り口に防腐癒合剤を塗布しておけば、そこからの腐朽は発生、拡大しない。



巻き込み完了

3年後



残枝が巻き込みを阻害している

残った枝が腐朽し、これが幹の内部に拡大する。

(担当者 育種緑化部長 細川 久藏)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL.019(697)1536
 岩手県林業技術センター FAX.019(697)1410
 ホームページアドレス <http://www.rin.pref.iwate.jp/~ipftc/>